

冬 期 測 量

林 猛 雄

1 冬期測量

冬期測量とは、冬期積雪の中で或は全く雪なく寒さだけの地にて測量を行うことで、他の時期に行う測量に比し全く特色ある測量を行うことができる。北海道では開拓の昔はよく行はれており、現在でも冬期にも測量を行っておる。

2 特 徴

2.1 長 所

- (1) 広葉樹乃至は落葉樹の葉がすべて落ちて、測量の見透し線 (Sight Line) の障害が少くなる。北海道、樺太の山は冬期は全く禿げ山になる。
- (2) 草が皆枯れることも見透し線の改良に役立つ。寒冷地で草の生長の速で且つ巨大なことは驚くべきで、その丈けが北海道で2～3 m、樺太で3～5 mにも達する。
- (3) 地形がよく分る。従って測量に大きな間違いが少い。
- (4) 測量の障害となる熊、狼、野犬、鳥、蛇、ダニ、蜂、蟻、虻、蚊等の害獣、害虫が居ない。
- (5) 湿地の氷上測量には良い。
- (6) 泥炭地で他の時期に測量できない地域がある。
- (7) 他の仕事と競合しない。
- (8) 水が最も良い。

2.2 欠 点

- (1) 気候寒く、服装重く、共に作業に困難である。
- (2) 積雪は非常に歩行に困難である。
- (3) 吹雪 (Drift Snow)、降雪 (Falling Snow) の時は測量できない。
- (4) 風速 1 mは -1.0°C 以上に身体に感ぜられる。所謂体感温度即ち感覚温度 (Effective Temperature) である。
- (5) 河川、湖沼の氷上測量は危険が多いから成るべくやらないこと。特に3月の解氷期の氷は危ない。
- (6) 素手で測量することが多い。従って手を濡すと凍傷 (Frost Bite) にかかり易いので濡さないこと。
- (7) 立小便 (Urinating on the ground) をしないこと。
- (8) 焚き火の希望およびその危険。火事 (Fire) の心配がある。但し雪又は氷の上で焚き火しても下の雪又は氷は解けない。
- (9) 野外の作業の後入浴又は酒が飲み度くなる。
- (10) サボる率が夏の測量よりも大である。

3 結 論

冬期測量の実際のデータは札幌の自宅に置いておるので茲には示されない。

冬期測量の欠点の中最大なるものは、気候寒冷、服装過重のため人の働き度く無い気持ちである、故に他の時期の測量に取って代る意味でなく、冬期測量の特色を発揮できる場合に限ることとする。

- (1) 本測 (Final Survey) よりも寧ろ予測 (Preliminary Survey) の際に役立つ。
- (2) 見透し悪き複雑な地形に役立つ。
- (3) 草多き湿地の測量には良い。
- (4) 他の仕事と共用する時、例えば探険、雪中行軍の折などである。

注意すべきことは

- (1) 測量前に入浴或は飲酒しないこと。
- (2) 吹雪、降雪の時は測量をしないこと。
- (3) 凍傷を生じないこと。
- (4) 火事を引起さないこと。